

2 収支の状況

単位:千円

		20年度(決算)	21年度(決算)	22年度(予算)
収入	県支出金	48,506	47,299	50,411
	使用料・手数料	0	0	0
	その他	2,464	380	0
	収入計 (a)	50,970	47,679	50,411
【別掲】 県歳入(使用料)		488	175	504
支出	事業費	5,427	6,103	5,474
	管理運営費	11,934	10,535	13,773
	人件費	33,609	31,041	31,376
	その他	0	0	0
	支出計 (b)	50,970	47,679	50,623

3 利用状況

	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(目標)
①年間利用者数	40,408 人 県の障害者スポーツ大会をはじめ教室や大会が一層周知されたこと、支援をしているクラブの活動の拡大などにより利用者が増加。	24,025 人 H21.8～H22.3の期間中、体育館を主体とした改修工事を行い、体育館やプールなど利用中止期間があり、利用者数は大幅減となった。	45,000人 改修による体育館面積の拡大により利用の効率化、設備・備品充実などから、新規利用者の増加を予想している。平成20年度を大きく上回る利用者を見込んでいる。
②利用者意見等の反映	利用者からの要望については、その場に対応できる簡単な内容であれば、即座に対応している。施設・器具の準備等ですぐに対応できない内容についても月1回の職員ミーティングなどで対応策を検討し、利用者の意見を反映させるよう努めている。(例:スポーツ教室の内容、消耗品の購入等)		
③その他特記事項			

4 平成21年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	<p>下記のとおり危機管理体制や、個人情報保護のための対策を行っており、適切な管理運営の確保を図っている。</p> <p>・危機管理体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各施設利用中は安全管理のために職員を1名配置し、事故等への迅速な対応を行っている。 2 月に1回、施設、用具の安全点検を職員が実施 3 年4回、業者による運動機器のメンテナンスを実施 4 年1回、救急救命の講習を職員が受講 5 ヒヤリハット事項等を県に報告し、対応をその都度協議している。 <p>・個人情報保護の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「個人情報保護規則」を定め、それに基づき個人情報保護を実施 2 個人情報は統計専用パソコンで別途管理(外部からのアクセスが出来ないようにしている) 3 各種個人情報の台帳については、鍵付書庫にて管理

<p>②利用者サービスの維持向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者スポーツセンターを一つの地域コミュニティーの場と捉え、地域の子どもから高齢者までが、気軽に来館し、障害のある方々と交流できる事業の展開を積極的に行っており、障害者の地域生活支援に大きく寄与している。 ・ 障害者が安全に、また個人でも気軽に施設を利用できるように、職員が指導を行うなど、ソフト面の充実を図っている。 ・ 障害者の利用に関しては60日前からの予約、その他の者に関しては30日前からの予約とし、障害者の優先利用を徹底することで、障害者の利用を容易にするよう取り組んでいる。 ・ 同センターを会場とした事業展開にとどまらず、職員が各地域に出向く「出張型」のスポーツ教室の開催や、地域の総合型スポーツクラブへの支援など、障害者がそれぞれ居住する地域で住民と交流し、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに取り組んでいる。このことによって、県内全域における障害者スポーツの振興が図られるとともに、障害者がスポーツに触れる機会の地域間格差の縮小にもつながっている。 ・ 県内で普及が遅れている精神障害分野や知的障害児を対象とした教室を開催し、障害者スポーツの普及拡大が図られている。 ・ インターネット上にホームページを開設し、各種教室や大会等の情報を発信するとともに、画面上で参加申込や情報交換等ができるようにし、利用者にとって気軽に利便性が高いものとなっている。 URL: http://www.kochi-scfed.com/ ・ 障害者スポーツセンターだよりを作成し、大会や教室の広報を行っている。
<p>③利用実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成21年度における施設の利用者数は24,025人で、前年度と比べ16,383人(約40%)減少したが、体育館等の改修によるもので目標としていた20,000人を大幅に超える利用者数となっている。 ・ 平成19年度から、高知チャレンジクラブ(総合型地域スポーツクラブ)を支援し、施設の地域開放を積極的に進めた結果、地域住民の利用者数が大幅に増加した。 ・ それにより、障害者と地域の子どもや高齢者が交流できる地域コミュニティーの場になっている。
<p>④収支の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理費については、施設温度・照度の測定を基に利用者への理解を促しながら、光熱費等の節約、郵便物の同封などに取り組んでいる。 ・ スポーツ教室等の事業については、参加者から保険料程度の実費負担を徴収し、また団体利用者から指導料を徴収する一方で、講師謝金や経費の圧縮などにより、収支改善のための努力を行いながらも、ソフト事業の質や回数を落とさないための努力を行っている。
<p>総合評価</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内全域への障害者スポーツの普及と振興を図る観点から、出張教室を開催し、小中学校等で障害者スポーツの体験教室を開催したり、地域の総合型スポーツクラブの設立・運営を支援するなど、その創意工夫と積極的な姿勢は評価できる。 ・ 日頃より、利用者本位の姿勢で利用者の要望や意見を取り入れ、県に対しても積極的に提案、相談を行っていることは評価できる。 ・ 障害者スポーツセンター運営委員会を開催し、外部有識者の意見を取り入れた事業展開をしており、評価できる。 ・ 平成21年度の体育館等改修工事については、利用者への説明と対応を行うとともに、利用者目線の改修提案を積極的に行い、工事の完成に尽力したことは評価できる。 ・ 重度障害者へのスポーツ振興としてポッチャ競技の普及を行い、結果として県の障害者スポーツ大会に7チームが申込し、8年ぶりに競技実施につながったことは評価できる。 ・ 平成22年度は体育館等改修も終わり、さらなる利用者の増加が見込まれるため、なお一層の安全意識を持って、管理されることを期待したい。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容とおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの